

# お父さんのおい

高知 三年 広哉

お父さんが  
仕事でいなくなった

夜

お母さんが

「広哉、パジャマに着がえや。」

と言った

ぼくは

パジャマに着がえて

ふとんに入った

お父さんがいた時

みんなでねていたふとんだった

ふとんに入ったら

お父さんのおいがした

お父さんのまくらを

顔にのせた

なみだが出てきた

ぼくはなきながら

「お父さん、お父さん。」

と言った

お母さんは

ぼくをだっこしてねた



(指導  
坂田次男)